



釜石の市郷土資料館

- 八幡平支局 0195(70)1507
- 岩手支局 0195(62)3249
- 久慈支局 0194(53)3030
- 二戸支局 0195(23)8080
- 洋野支局 0194(69)1060
- 八戸支社 0178(43)1010
- 陸前高田支局 0192(55)2590
- 気仙沼通信部 0226(22)0202
- 大船渡支局 0192(27)3070
- 釜石支局 0193(23)5107
- 宮古支局 0193(62)1771

効果検証まきストーブ

釜石市鈴子町の市郷土資料館(佐々木寿館長)に、市内企業が開発したまきストーブが設置された。ビニールハウスでの使用を見込んで農家向けに開発された製品。公共施設など広いスペースの暖房にも有効と考えた企業が無償提供し、ひと冬、実用のための試験をしている。

ストーブは同市大平町の石村工業(石村真一社長)が開発。鉄製で高さが約140センチ、重さが150キログラム。本体の上に、まきを投入する円筒(直径約50センチ)を斜めに取り付けた。この微妙な傾斜が効率の良い燃焼のポイント。

企業が農家向けに開発 公共施設に応用期待

トだという。長さ1メートルほどの丸太(直径10〜20センチ)を垂直に数本入れることで、8時間以上連続で燃焼し、手間が掛からないのが利点。下から徐々に燃えていくため一定の燃焼が保たれる仕組みだ。丸太は釜石地方森林組合(曾根哲夫組合長)が間伐材を無償提供する。

同館はこれまで、同じ場所に石油ストーブを置いていた。石村社長は「燃費は3分の1以下になると試算している。焼き芋もできる。いい試験結果が出ることを期待したい」と結果を待つ。

同館は天井が高く、暖房設備も不十分で、冬場の寒さは悩みの種だった。佐々木館長は「入館者が『寒い』と入り口で引き返したこともあった。ゆっくり見学できる快適な空間がつけれる」と感謝する。

同館は午前9時半から午後4時半まで。火曜日休館。

釜石市郷土資料館に設置されたまきストーブ。まきを入れるための斜めの円筒が特徴

